

校長室より

第3号

# 「天空高き」



平成22年5月13日

「目には青葉 山ホトトギス 初鯉(はつがつお)」どこかで一度は聞いたことのある俳句ではないでしょうか。江戸時代の俳人山口素堂の句です。青葉、ホトトギス、鯉と季語が3つも入っている変わった俳句です。山からは、うらかなホトトギスのさえずりが聞こえ、里では新緑が目まぶしく、またおいしい鯉が収穫できる。この句は、そういうはずむような生命に満ちあふれた季節がやってきたことを、3つの季語、それもすべて別の感覚で味わえるものを並べることによって、「初夏が来た」ということを表現した一句です。五月は、我々が、本当に自分が生きている、正確に言えば、生かされていることを実感できる季節だと思えます。



新学期がスタートして約1ヶ月経過しました。1年生の皆さんは元気よく挨拶をしてくれます。本校での生活に慣れ、新しい友達ができただでしょうか。2・3年生の皆さんは自分の目標に向かって充実した学校生活を送っているでしょうか。

入学式でも始業式でも同じお願いをしました。リスペクトすること。皆さんを支え取り巻く多くの人たちを大切に。あなたの周りにある多くの物、机やイス、教科書を始め学用品や自分達の持ち物を大切に。そのことが結局は自分自身がリスペクトされる、大切にされることになるのだと思います。お互いの思いを大切にこの学園でかけがえのない関係を構築してもらいたいと思います。

ところで、4月中旬の春季県体予選会では、ハンドボール男子、ソフトテニス、男女のバスケットボール、サッカー、柔道、それぞれの試合の応援に行きました。柔道以外の結果は残念ながらそれぞれ1回戦で敗退しましたが、ひたむきに1点を取るためにボールを

追いかける姿には感動しました。悔しさをバネに6月の選手権予選ではそれぞれのクラブ、まずは1勝を合言葉に練習に励んでもらいたいと思います。

柔道の個人戦では有國君と上山さんが見事優勝しました。有國君は下馬評通りでしたが、上山さんは2年生ながら常に攻撃的な試合運びで素晴らしい優勝でした。今週に行われる県体でも、きっと素晴らしい成果を収めてくれると信じています。二人の健闘を祈りたいと思います。

県体が終わればすぐに中間考査が始まります。1年生にとっては3日間テストという初めての経験になります。

早めにテスト準備に取りかかり、他人と比較することなく、自分の力を精一杯引き出すことを大切にしてください。そのためには日頃の授業やクラブ活動を始め、掃除でもその他の学級活動でも、家庭での活動も一生懸命に取り組むことが大切で、規則正しい生活習慣と集中して取り組む姿勢が大事になります。

余談ですが、私が中1で初めて中間考査を受けたとき寮の先輩からいろいろアドバイスをもらい、結局は詳細な計画を立てることに明け暮れ、それと各教科のノートをきれいにまめることに時間をとられ、英語の単語を発音しながら書いて覚えたり、数学の問題をたくさん解くということまでに時間を取ることができず、大失敗に終わってしまった苦い経験があります。

皆さん一人ひとりが、自分の力を信じて地道に、全力で取り組んでくれることを心から願っています。



## 朝の地名テストにチャレンジ!

今回は常識テストでなく、昭和53年(1978年)に実施された地名テスト(裏面)です。前回と同様に山本真喜雄元校長先生が作成されました。当時全校生徒、中1~中3、146名中90点以上が24名いました。(中1-6名、中2-7名、中3-11名) 疲れたときに息抜きにチャレンジしてみてください。

高水高等学校附属中学校  
校長 前田 茂雄